

V06b

ぐんま天文台近赤外線カメラのファーストライト

西原英治、橋本修、奥田治之 (ぐんま天文台) 西村徹郎 (国立天文台)

県立ぐんま天文台の150cm望遠鏡カセグレン焦点に設置された近赤外線カメラについて、現状を報告する。この装置の検出器には、HAWAII アレイ (HgCdTe 1024 × 1024 画素) を用いており、 $0''.4$ /画素のサンプリングで、 $6'.8$ の視野を持っている。さらに、通常の広帯域 (J, H, K, Ks の各バンド) および狭帯域 (FeII, H₂ 1-0 S(1), Br γ , CH₄) 撮像の機能のほかに、グリズムを用いて、J, H, K の各バンドを1フレームに収める中分散スリット分光の機能も持つ。

この装置は、さまざまな調整・立ち上げ作業を行った後、本年2月にエンジニアリング・グレードの検出器を用いて、撮像モードのファースト・ライトに成功した。この後、基礎的な性能評価のための標準星のデータを取得し、装置の性能およびぐんま天文台の赤外観測サイトとしての評価を行っている。また、本年6月には、エンジニアリング・グレードからサイエンス・グレードへ、検出器の交換および動作確認を完了した。年会では、その時点の最新状況についての報告もする予定である。